

1. 同時流行のモニタリング体制

厚生労働省アドバイザリーボードにおいて、専門家の分析・評価も伺いながら、新型コロナ・インフルエンザの流行や、医療提供体制の状況について複数の指標を用いてモニタリングしている。

新型コロナ	新規陽性者数、入院者数、重症者数、死亡者数、検査数、ゲノムサーベイランスなど
インフルエンザ	定点患者報告数、基幹定点入院患者報告数、インフル脳症報告数、学校欠席者数、病原体サーベイランスなど
医療提供体制	病床使用率、救急搬送困難事案など

2. 直近の感染状況（別紙 1, 2）

新 型 コ ロ ナ 新規感染者数について、全国的に増加が継続しており、ほぼすべての地域で今週先週比が 1 を上回っている。一方で、現時点では今夏の感染拡大時より急速な増加にはなっていない。

現在の感染状況には地域差がみられ、その差が拡大している。北海道では今夏の感染拡大のピークを超えて、過去最多を更新している。また、東北、北陸・甲信越、中国地方でも多くの増加がみられる。一方、首都圏や近畿、九州・沖縄でも増加がみられるものの、10万人あたりで全国を下回っている。また、高齢者施設と医療機関の集団感染も増加傾向にある。

今後の感染状況について、大都市において短期的には、地域差や不確実性はあるものの、増加が予測されており、今夏のような感染拡大となる可能性もある。

インフルエンザ 季節性インフルエンザについては、例年の同時期よりも低い水準にあるものの、直近 2 年間の同時期より高く、一部の地域で増加傾向がみられる。新型コロナウイルス感染症との同時流行を含め今後の推移に注意が必要。

3. 直近の医療提供体制の状況（別紙 3, 4）

病 床 使 用 率 全国的には、病床使用率は上昇傾向にあり、感染者数が多い地域などでは 3 割を上回り、一部の地域では 5 割を上回っている。重症病床使用率は低い水準にあるが、今後、新規感染者数のさらなる増加に伴う影響に注意が必要。

救急搬送困難事案 非コロナ疑い事案、コロナ疑い事案ともに、全国的に増加傾向となっている。

○ 感染状況について

- ・新規感染者数について、全国的に増加が継続しており、ほぼすべての地域で今週先週比が1を上回っている。一方で、現時点では今夏の感染拡大時より急速な増加にはなっていない。
- ・現在の感染状況には地域差がみられ、その差が拡大している。北海道では今夏の感染拡大のピークを超えて、過去最多を更新している。また、東北、北陸・甲信越、中国地方でも多くの増加がみられる。一方、首都圏や近畿、九州・沖縄でも増加がみられるものの、10万人あたりで全国を下回っている。また、高齢者施設と医療機関の集団感染も増加傾向にある。
- ・全国の年代別の新規感染者数は、人口あたりでは10代を始めとして若い世代ほど多くなっている。また、新規感染者数が多い地域では、特に10代以下の増加幅が大きい。高齢者の新規感染者数も増加し、重症者数と死亡者数も増加傾向にある。
- ・本年1月以降の小児等の死亡例に関する暫定報告にあるように、小児感染者数の増加に伴う、重症例、死亡例の発生に注意が必要である。また、小児の入院者数の動向にも注意が必要。
- ・季節性インフルエンザについては、例年の同時期よりも低い水準にあるものの、直近2年間の同時期より高く、一部の地域で増加傾向がみられる。

○ 今後の見通しについて

- ・今後の感染状況について、大都市において短期的には、地域差や不確実性はあるものの、増加が予測されており、今夏のような感染拡大となる可能性もある。今後の変異株の置き換えりの状況や、年末に向けて、社会経済活動の活発化による接触機会の増加等が感染状況に与える影響にも注意が必要。
- ・季節性インフルエンザについても、一部の地域で増加傾向がみられることから、新型コロナウイルス感染症との同時流行を含め今後の推移に注意が必要。

○ 感染の増加要因・抑制要因について

【ワクチン接種および感染による免疫等】 ワクチン接種と自然感染により獲得した免疫は、経時的に低下していると考えられる。また、60代以上では、20-40代と比較してワクチンの接種率は高いが、感染による免疫獲得は低く、高齢者層での感染拡大が懸念される。

【接触状況】 夜間滞留人口について、地域差がみられるが、昨年同時期と比較して、多くの地域で同一又は上回る水準で推移している。また、一部急増している地域もあり、年末に向けて、社会経済活動の活発化による接触機会の増加等が懸念される。

【流行株】 国内では現在BA.5系統が主流となっている。BQ.1系統やXBB系統など、海外で感染者数増加の優位性が指摘されている系統について、今後、さらに割合が増加する可能性があり、注視が必要。

【気候・季節要因】 全国的には比較的換気を行いやすい気候条件であるが、北日本など一部の地域では気温の低下がみられ、換気がされにくい場合もある。また、冬に向かって呼吸器ウイルス感染症が流行しやすくなる。

○ 医療提供体制等の状況について

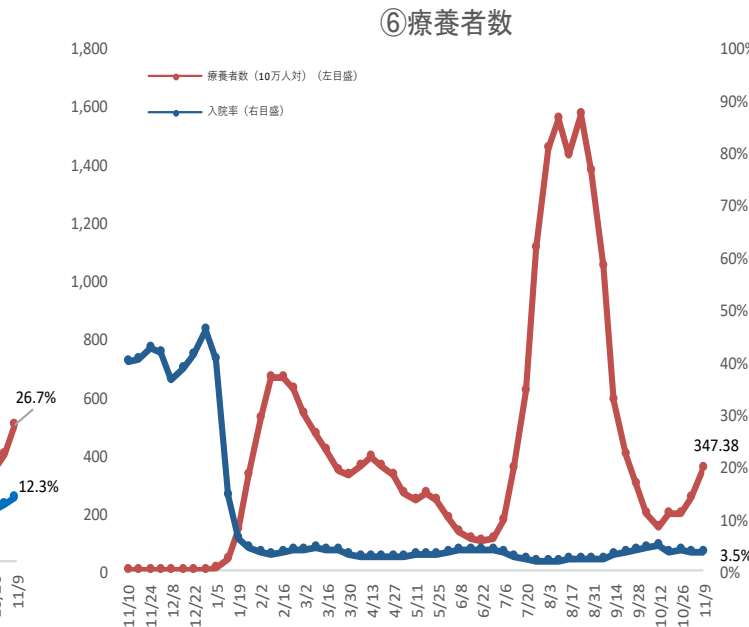
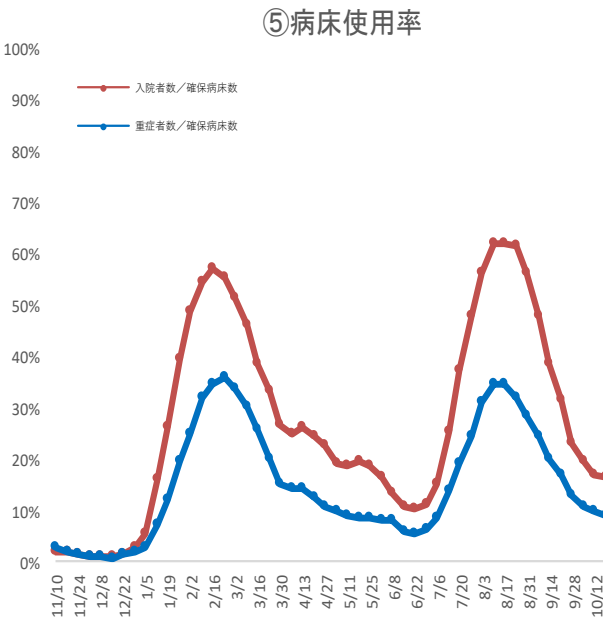
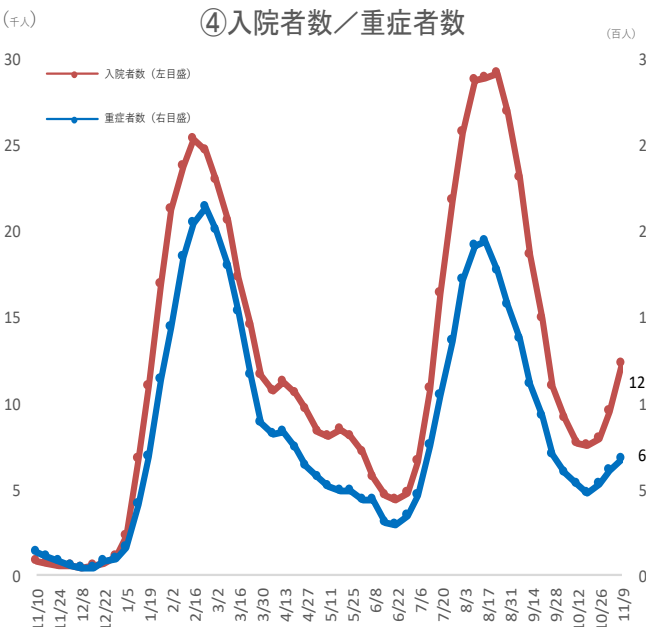
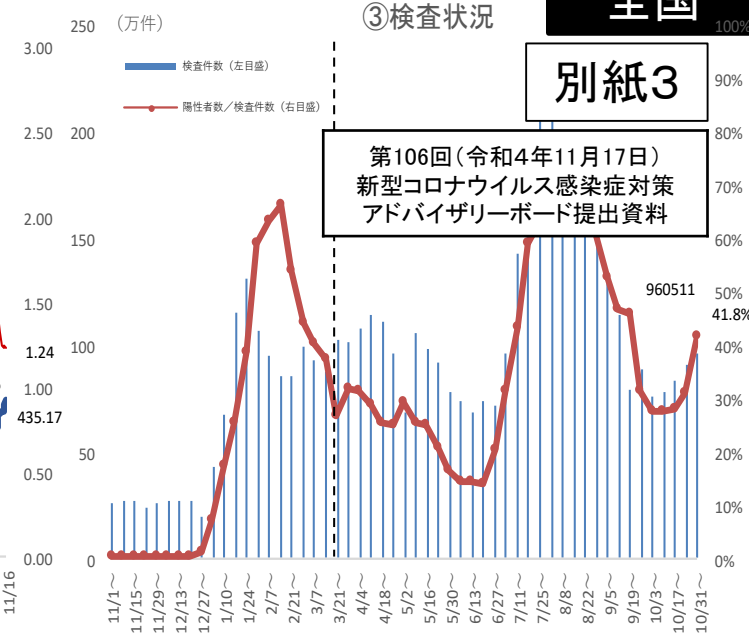
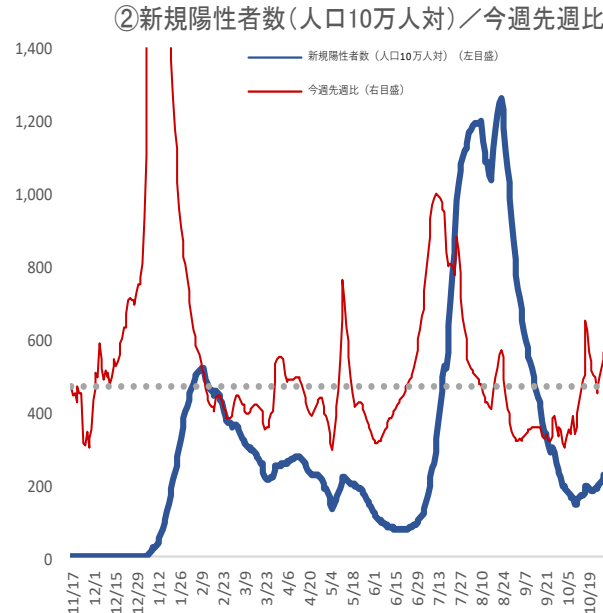
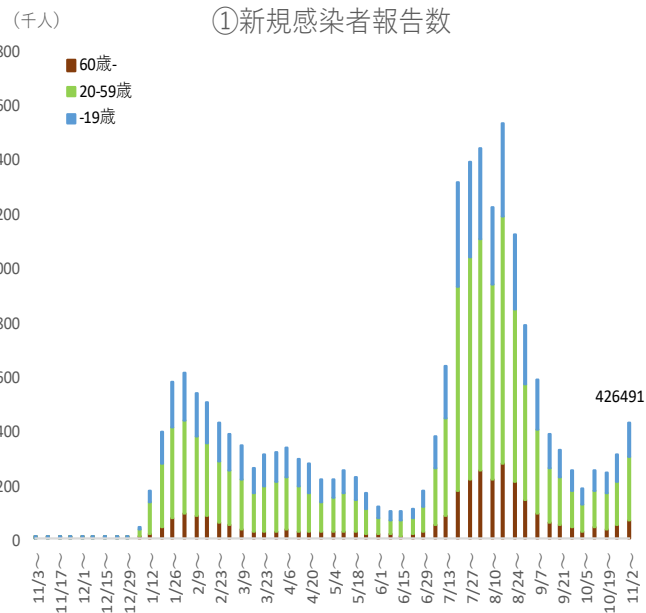
- ・全国的には、病床使用率は上昇傾向にあり、感染者数が多い地域などでは3割を上回り、一部の地域では5割を上回っている。重症病床使用率は低い水準にあるが、今後、新規感染者数のさらなる増加に伴う影響に注意が必要。
- ・介護の現場では、施設内療養や、療養者及び従事者の感染がみられる。
- ・救急搬送困難事案については、非コロナ疑い事案、コロナ疑い事案ともに、全国的に増加傾向となっている。

直近（2022年第44週：10/31-11/6）のインフルエンザ動向

サーベイランス指標（情報源）	レベル*	トレンド*	コメント
定点当たりのインフルエンザ受診患者報告数（NESID、約5000定点）	低 (0.06)	微増	35週0.03、36週0.03、37週0.02、38週0.02、39週0.01、40週0.01、41週0.02、42週0.02、43週0.03、 44週0.06（昨年同週0.00）
全国の医療機関を1週間に受診した推計患者数（NESID、推計）	-	-	-
急性脳炎サーベイランスにおけるインフルエンザ脳症報告数（NESID、全数）	低	横ばい	8週にB型1例報告以降、 43週まで報告なし
基幹定点からのインフルエンザ入院患者報告数（NESID、約500定点）	低	微増	35週4例、36週0例、37週0例、38週0例、39週0例、40週0例、41週6例、42週3例、43週2例、 44週4例（昨年同週0例）
病原体定点からのインフルエンザウイルス分離・検出報告数（NESID、約500の病原体定点）	低	横ばい	11月14日現在 、25週以降A(H3)複数、A(H1)2例（データは毎日自動更新）
インフルエンザ様疾患発生報告数（全国の保育所・幼稚園、小学校、中学校、高等学校におけるインフルエンザ様症状の患者による学校欠席者数）	低 (休校3、学年閉鎖2、学級閉鎖5)	増加	集計開始した36週以降、休校 3 、学年閉鎖は 2 、学級閉鎖 20
国立病院機構におけるインフルエンザ全国感染動向（全国140の国立病院機構各病院による隔週インフルエンザ迅速抗原検査件数、陽性数） (検査は、診察医師の判断による)	低 (10/16-31:検査数1485、陽性数A3例、B1例、陽性率0.3%)	微増	8/16-31：検査数1404、陽性数8(A8例、0.6%) 9/1-15：検査数1413、陽性数3(A2/B1例、0.2%) 9/16-30：検査数1005、陽性数0(0.0%) 10/1-15：検査数1066、陽性数0(0.0%)
MLインフルエンザ流行前線情報データベース (主に小児科の有志医師による自主的なインフルエンザ患者報告数〔迅速診断検査〕)	低 (新規：5例)	横ばい	11月15日現在 、8月A型2例、9月A型3例、10月A型3例/B型3例、11/1、11/5、11/7にA型2例、11/10にA型1例（データは毎日自動更新）

*「トレンド（傾向）」＝「増加しているのか、減少しているのか、横ばいなのか」、レベル（水準）＝「多いのか、少ないのか」
NESID：感染症発生動向調査

第106回(令和4年11月17日)
新型コロナウイルス感染症対策
アドバイザリーボード提出資料

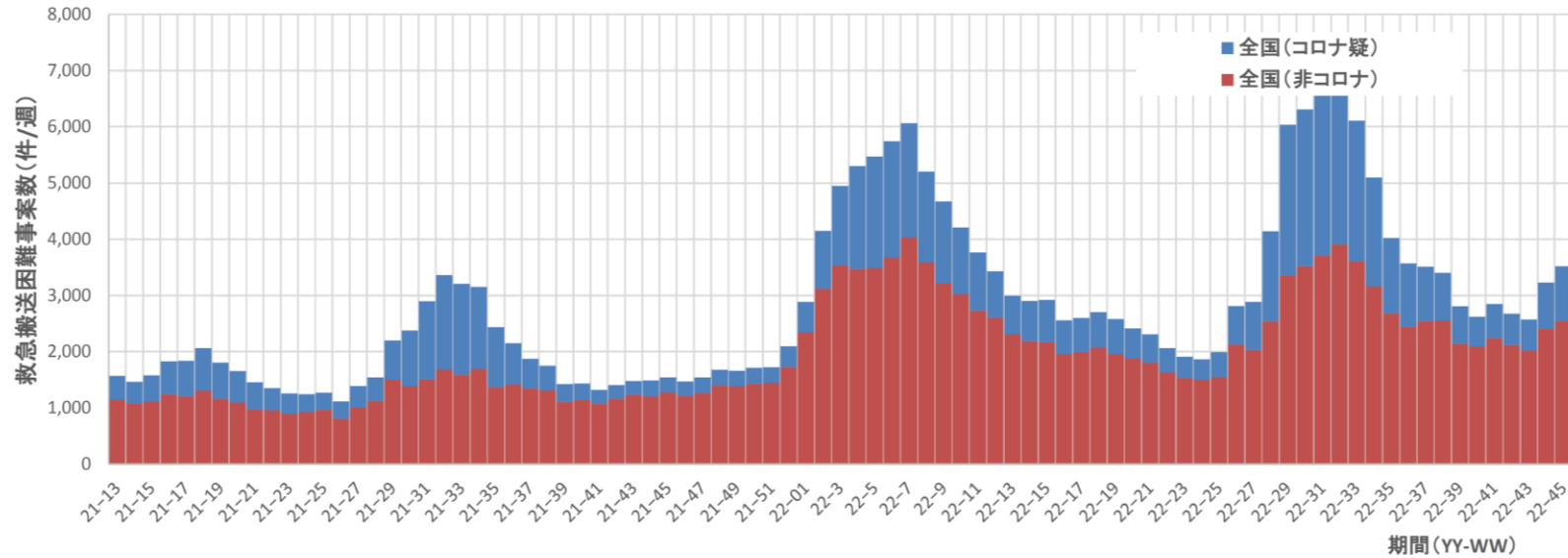


※ ①新規感染者報告数についてはHER-SYSデータをもとに作成しているため、令和4年9月2日から9月26日まで、都道府県から届出があった場合には新型コロナウイルス感染症の届出の対象を限定することを可能としていることから、HER-SYSに報告された感染者数が都道府県から公表された感染者数よりも少なくなる可能性がある。

※ 人口10万対の人数は、令和3年12月4日までは総務省統計局における各年10月1日時点の人口推計の数値、令和3年12月5日からは令和2年国勢調査の数値により算出している。

※ 検査件数は、退院時検査等も含む検査の総数であり、令和4年3月21日以降は従来含まれている「PCR検査実施件数(地衛研・保健所、民間検査会社及び大学・医療機関の都道府県別集計)」に「抗原検査実施(検体採取)人数(地衛研・保健所及び大学・医療機関の都道府県別集計)」を追加。

コロナ疑い及び非コロナ救急搬送困難事案数/週、全国



救急搬送困難事案数のコロナ疑い及び非コロナの割合、全国

